

# 諏訪の 景気動向

2026  
5月

(2026年4月末D・I調査)

製造業 p2  
石油由来の材料調達に不安

商業 p4  
イラン情勢が多分野に影響

観光・サービス業 p5  
春の行楽シーズンは低調

建設業 p6  
建築資材が値上げや供給制限

雇用 p8  
イラン情勢の雇用への影響注視

今月のコラム  
景気後退に備える



## CONTENTS

概況	1
製造業	2
製造業 受注状況	3
商業	4
観光・サービス業	5
建設業	6
収益性状況	7
雇用状況	8
経営上の課題	8
諏訪地方主要経済指標	8
2026年4月の状況	9
● 自社の業況	9
● 収益性	9
● 資金繰り	10
● 材料賃金等総費用	10
● イラン情勢の影響	11
● 諏訪地方の景況感	11
回答全社：業況判断DIの推移	12
調査概要	12
コラム「景気後退に備える」	13

## お天気マーク（調査月から見た状況）



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上好転したか、3ヵ月前に好転して横ばいの時。



回答全社は好転しているものの、業種によって悪化企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が0～9ポイントの好転または悪化か、3ヵ月前も同様に横這いの時。



回答全社が悪化しているものの、業種によって好転企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上悪化したか、3ヵ月前に悪化して横這いの時。

# 概況

## 2026年4月アンケート調査および 企業訪問ヒアリング調査による取りまとめ

諏訪地方162社のご協力で行った2026年4月の「景気動向調査 (DI調査)」は、回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが△4.3で、前回調査時 (2026年1月末、以下同) の△5.2から、0.9ポイント改善した。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは2.9で、前回の6.1から悪化した。一方、非製造業 (商業、観光・サービス業、建設業) の同DIは△16.6で、前回の△25.0からやや改善した。「3ヵ月後」の業況予想DIは、製造業が前回の11.2から2.0へ悪化し、非製造業も△10.0で前回の14.3から悪化し、回答全社では△2.5 (前回12.4) となった。

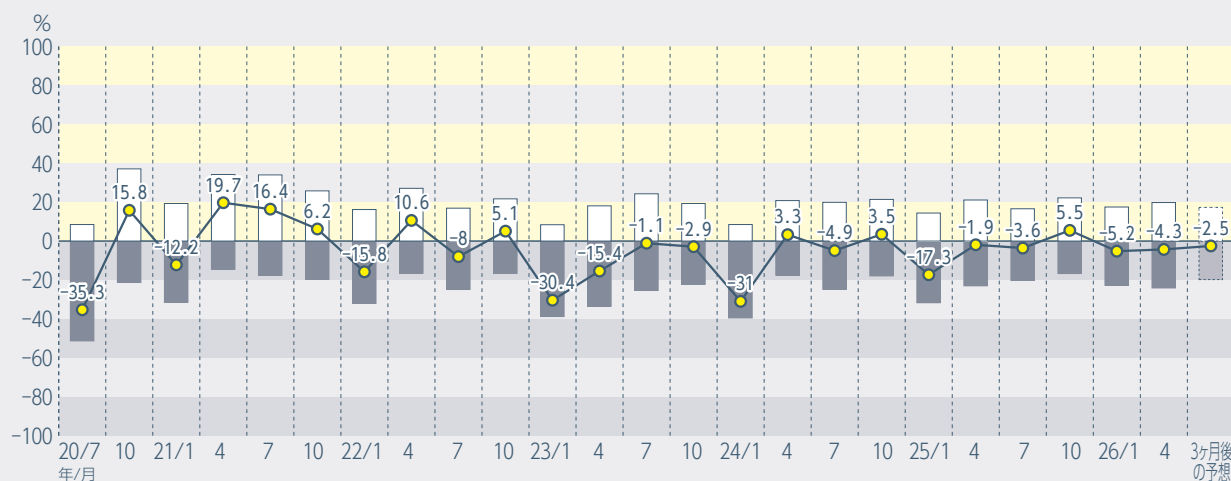
2026年4月は、2月末から始まった米国とイスラエルによるイランへの武力攻撃で、中東情勢が緊迫

化しつつある時期で、前回調査の1月とは大きく状況が異なっている。1月時点では、回答全社の3ヵ月後の業況予想DIは12.4 (製造業11.2、非製造業14.3) と回復基調に入る見込みだったが、紛争の勃発で腰折れした。産業の根幹となる原油の輸送が停滞したホルムズ海峡封鎖の影響は大きく、多くの石油由来製品の価格が高騰し、供給も不安定になった。イラン情勢の影響は3ヵ月前と比べ、回答全社で好転企業はなく、66.0%の企業が業績悪化に作用した。紛争終了のめどが立たないことから、3ヵ月後の予想は、好転への期待もあるが、先行き不透明感が強くマイナス水準となっている。

### ●産業別業況表

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	162	19.8	56.2	24.1	-4.3	162	25.9	43.2	30.9	-5.0	162	17.3	63.0	19.8	-2.5
製 造 業	102	24.5	53.9	21.6	2.9	102	34.3	41.2	24.5	9.8	102	16.7	68.6	14.7	2.0
非 製 造 業	60	11.7	60.0	28.3	-16.6	60	11.7	46.7	41.7	-30.0	60	18.3	53.3	28.3	-10.0
商 業	19	21.1	52.6	26.3	-5.2	19	21.1	52.6	26.3	-5.2	19	10.5	57.9	31.6	-21.1
建 設 業	23	4.3	65.2	30.4	-26.1	23	8.7	47.8	43.5	-34.8	23	13.0	60.9	26.1	-13.1
観光・サービス業	18	11.1	61.1	27.8	-16.7	18	5.6	38.9	55.6	-50.0	18	33.3	38.9	27.8	5.5

### ●回答全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移





## 3ヵ月前との比較

「好転」企業は前回の21.4%から24.5%へ増加し、「悪化」企業も15.3%から21.6%へ増加した。AIやデータセンター関連の需要は堅調。ただ、油剤や樹脂、シンナーなど、**石油化学系材料の仕入れが制限**される動きがある。資材やエネルギー、人件費などの総コストは依然、上昇傾向が続いている。

## 3ヵ月後の予想

「好転」予想の企業は、16.7%で前回の20.4%から減少し、「悪化」予想の企業が前回の9.2%から14.7%へ増加した。総コストは75.5%の企業が依然「上昇」を見込んでいる。中東情勢の影響への対応は自助努力では限度があり、**材料の高騰と調達難への不安**が高まっている。

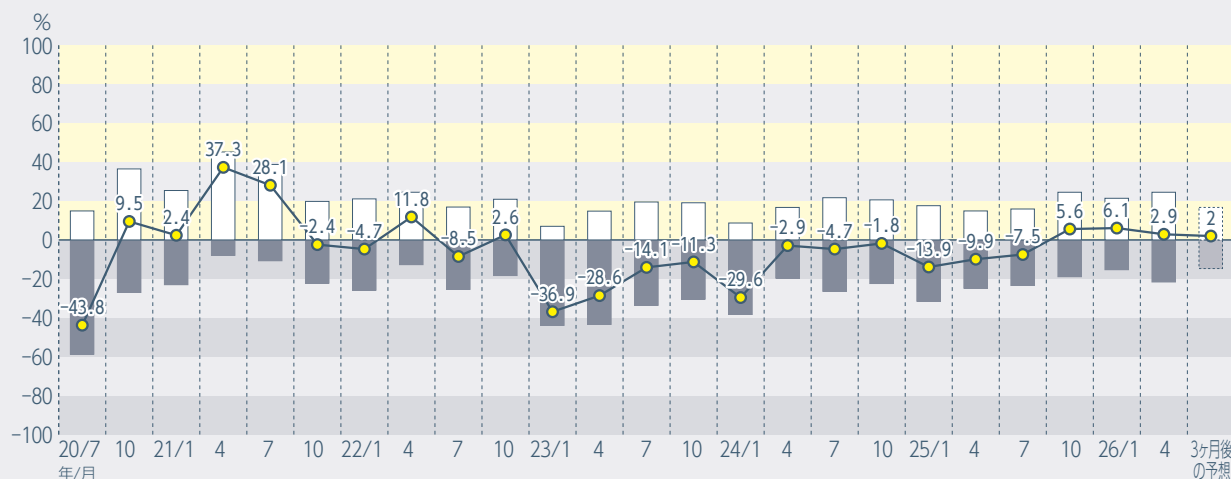
## 総体的な状況

前回調査で、米国の高関税政策への警戒感が薄れ、総体的に改善の機運が出ていたが、イラン情勢の悪化で一気に新たな懸念が広がった。紛争から約2ヵ月が経過した4月は、早期決着の見通しができず、原油輸送の停滞が、**製造に必要な広範囲の資材や薬品類などの価格高騰と調達難**の形で表れてきた。工業用薬品や油剤、洗浄剤などを扱う商社は、注文の電話が急増しているが、納品遅れが発生し苦慮している。仕入は止まってはいないものの、量が減り、価格も上昇した。取引先の注文があっても入荷日の約束ができず、注文の満額回答ができない状態で、新規顧客は断る状況となっている。油や薬品がないと機械の稼働ができないため、金額の問題ではなく、**なっている企業もある。**

## 企業のひとこと

- 3ヵ月どころか、1ヵ月先の見通しが不透明（金属製品製造業）。
- 半導体製造装置の業績目標管理で、メーカーは増産を要求しているが、イラン情勢悪化で出荷遅れが発生している。切削油、シンナー、洗浄液などが規制され、生産に影響が出ている。今までにない状況に陥ることが予想される（一般機械製造業）。
- 営業担当者が、企業案内として渡すカタログが刷新できない。印刷業者に頼んでもインク不足で、見積書を出す前に断りの連絡をもらう始末で、営業に影響をおよぼしている。石油化学製品とは関係のない製品の値上げも多く、この景況に便乗して値上げしているのでは（一般機械製造業）。
- 取引先から設備を依頼され体制を構築したが、受注がない（輸送機械製造業）。
- 半導体関連の仕事が増えたところへイラン情勢が影響し、さらに先行受注が増える傾向にある。原油関係で材料や副資材の調達が難しい影響も出始めている。レアアースや石油製品の動向次第では、受注はあっても生産がストップしてしまうかもしれない（電気機械製造業）。
- 電子部品の需要が伸び、量だけでなく高機能化や高付加価値化にシフトしている（電気機械製造業）。
- 親会社に価格転嫁してもらったが、仕入先からさらなる値上げを示唆され頭が痛い（精密機械製造業）。

## ●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



# 製造業 受注状況

## 3カ月前との比較

受注状況DIは9.8で、前回調査時の5.1からやや上昇した。規模別DIは、「1～29人企業」は△3.5で前回の1.8から悪化した。「30～99人企業」は31.5で前回の6.5から改善した。「100人以上企業」は10.0で前回の20.0からやや悪化した。業種別（主要5業種）では、「金属製品」が0.0から18.7、「輸送用機械」は△57.1から△11.1と改善した。一方、「一般機械」は35.3から△15.4、「精密機械」は20.0から7.2、「電気機械」は30.0から6.7へ悪化した。**石油化学系材料への不安は強い**が、メモリー系部品や検査装置関連の受注は堅調。

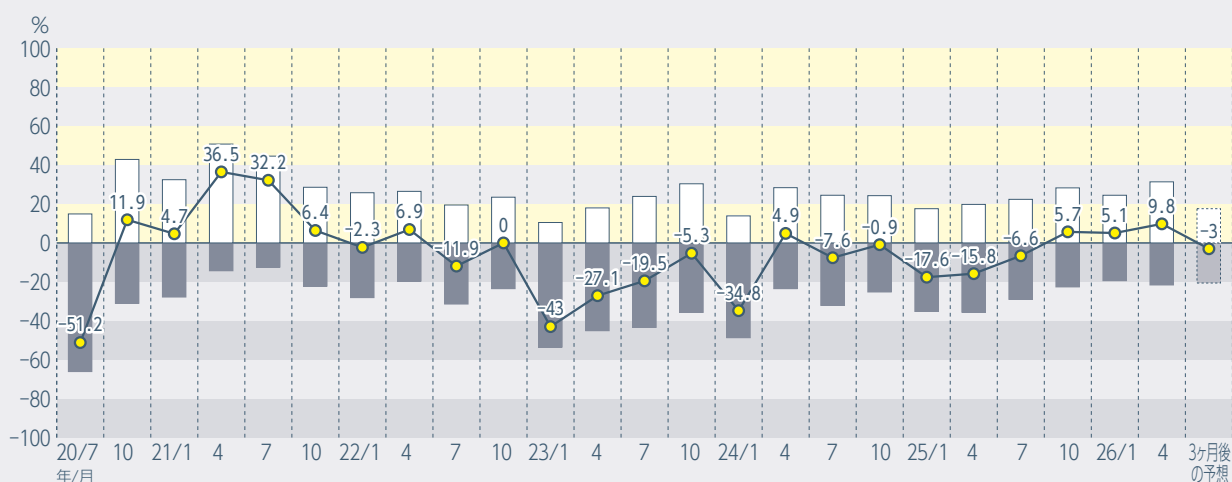
## 3カ月後の予想

製造業全体の受注予想DIは△3.0で、前回の15.3から悪化した。減少予想の企業が、前回の10.2%が20.6%へ増加した。規模別では「1～29人企業」が△8.8で前回の14.1から悪化した。「30～99人企業」は前回の19.3から8.5へ悪化し、「100人以上企業」は10.0から△10.0へ悪化した。業種別（主要5業種）では「精密機械」は0.0から7.1へ改善し、「金属製品」が15.1から△6.3、「電気機械」は40.0から20.0、「一般機械」は29.4から△15.4、「輸送用機械」は0.0から△11.1へ悪化した。**イラン情勢の悪化が長期化した場合の対応が懸念**されている。

●業種別・規模別受注状況表

		3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		102	31.4	47.1	21.6	9.8	102	47.1	28.4	24.5	22.6	102	17.6	61.8	20.6	-3.0
規模	1～29人	57	24.6	47.4	28.1	-3.5	57	45.6	31.6	22.8	22.8	57	15.8	59.6	24.6	-8.8
	30～99人	35	42.9	45.7	11.4	31.5	35	42.9	28.6	28.6	14.3	35	17.1	74.3	8.6	8.5
	100人～	10	30.0	50.0	20.0	10.0	10	70.0	10.0	20.0	50.0	10	30.0	30.0	40.0	-10.0
中分類	金属製品製造業	32	40.6	37.5	21.9	18.7	32	50.0	28.1	21.9	28.1	32	15.6	62.5	21.9	-6.3
	一般機械製造業	13	15.4	53.8	30.8	-15.4	13	30.8	38.5	30.8	0.0	13	15.4	53.8	30.8	-15.4
	電気機械器具製造業	15	26.7	53.3	20.0	6.7	15	53.3	33.3	13.3	40.0	15	26.7	66.7	6.7	20.0
	輸送用機械器具製造業	9	22.2	44.4	33.3	-11.1	9	66.7	0.0	33.3	33.4	9	22.2	44.4	33.3	-11.1
	精密機械器具製造業	14	28.6	50.0	21.4	7.2	14	50.0	21.4	28.6	21.4	14	21.4	64.3	14.3	7.1

●製造業：「3カ月前」と比べた受注状況DIの推移





## 3ヵ月前との比較

業況判断DIは△5.2で、前回の△19.1から改善した。客単価DIが前回の19.1から21.0へ上昇し、来店客数DIが、前回の△28.6から△10.5へ改善した。資金繰りDIは、前回の△19.1から△5.3へ改善した。73.7%の企業が総コストが上昇し、**イラン情勢は52.6%の企業が悪化要因**としている。

## 3ヵ月後の予想

業況予想DIは、「好転」予想の企業が、「悪化」予想の企業を下回り、前回の4.8から△21.1へ悪化した。**57.9%の企業はイラン情勢が影響する**と見ている。来店客数は、「好転」を見込む企業が、「悪化」見込みの企業を下回り、同DIは△10.5で前回の14.2から悪化した。

### ■スーパー

中東情勢の影響で、ポリ・ごみ袋やティッシュ・トイレットペーパーなどの生活関連用品の売上が増加している。

### ■自動車販売

諏訪地方の4月の車庫証明件数は868件で、前年同月比74件、9.3%増加した。

### ■靴店

若年層から高齢者まで、スニーカーの売れ行きが伸びている。

### ■タイヤ販売店

タイヤは、ほぼ国内で製造されているため、中東情勢の影響はない。材料も当面確保され、現在は製造にも影響は少ない。

### ■生花店

石油化学品は生花市場でも多く使用されるため、出荷価格が上昇している。

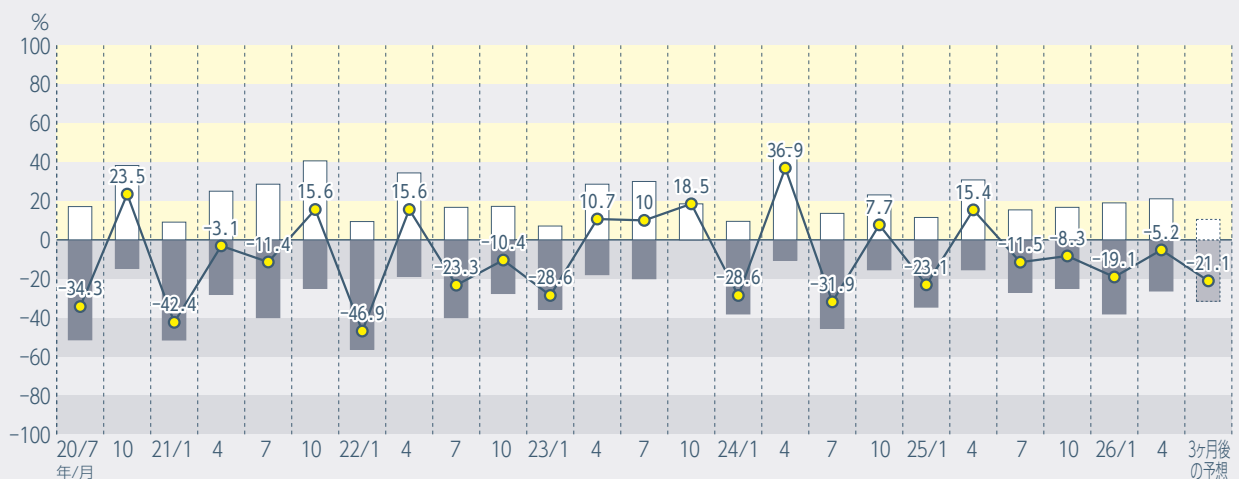
### ■書店

本屋大賞の受賞作がまずまずの売れ行きだった。中高の2～3年生向けの参考書も動いた。

## 企業のひとこと

- これまで取引がなかった企業から、各種燃料に関して問い合わせは増えているが、従前からの取引先に対しても安定供給ができない状況下のため、全て断っている（燃料販売店）。
- チャーシュー、カツ丼、ワンタンに使う豚肉の仕入れ価格がかなり跳ね上がってしまった。豚肉を使うメニューは値上げを検討している（飲食店）。
- 包装資材が入手困難となり、個別包装の食品は減っていく見通し。食品売場もカラフルからモノクロへ移り変わっていく可能性がある（スーパー）。
- 本屋業界にイラン紛争の影響はないが、中東の歴史や時事ネタに関連する新書が、年配男性を中心に売れている（書店）。

### ●商業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移





## 前年同期との比較

業況判断DIが前回の△25.0から△50.0へ悪化した。83.3%の企業が前年同月より総コストが上昇し、宿泊客数は50.0%の企業が減少した。春の行楽シーズンにもかかわらず、**例年の同時期より水面下での悪化幅が大きい**。節約旅行の定着やイラン情勢が影響していると見られる。

## 3ヵ月後の予想

トップシーズンへ向かう時期だが、業況予想DIは好転予想が33.3%、悪化予想が27.8%で前回の12.5から5.5へ悪化した。総コスト上昇を予想する企業が77.8%ある。イラン情勢などで**例年より慎重な見方が多い**。全国の信用金庫と行う諏訪信用金庫の御宿場印プロジェクトの誘客効果が期待される。

### ■ 上諏訪温泉

諏訪湖温泉旅館組合加盟14施設中、7施設が前年同月比プラスとなった。4月の客室稼働率は78.9%（前年75.2%）。立山黒部アルペンルート開通に伴うインバウンド客が好調だった。桜との共演が見られた上諏訪温泉春のウィークエンド花火も好評で、稼働率上昇に寄与した。

### ■ 下諏訪温泉

インバウンドの利用は少ないが、リピーターや連泊客が多かった。

### ■ 蓼科・白樺湖・富士見高原

例年に比べ、今年は春スキーや冬山登山の来場者数が大きく減少し、蓼科、白樺湖方面は総じて入り込みが少なかった。ゴールデンウィークも前半の4月は低調だった。グリーンシーズンに入って来場者数が増加している。

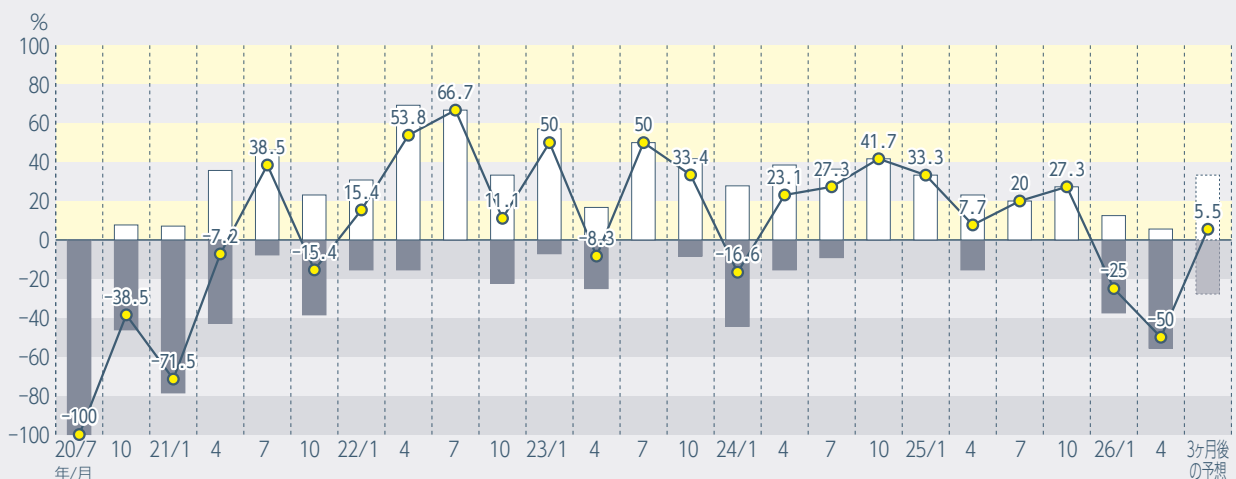
### ■ 諏訪大社

上社・下社合わせた4月の参拝者数は、約78,000人だった。前年同月比約7,000人、10.4%増加した。

## 企業のひとこと

- 観光業は、おもてなしがしっかりできていないと、お客さまから選んでいただけない。おもてなしはAIに頼ることができないので、人材育成に力を入れる必要がある（観光施設）。
- 諏訪は観光地というイメージの中にあって、下諏訪は静かで良いという観光客が増え、県外からの利用者が多い（旅館）。
- 宿泊代金に対して、敏感な反応が多くなってきた。周辺の施設の料金を今以上に見て、判断していきたい（ホテル）。
- 現時点で7月の海の日以降、例年より早いペースで予約が入り始めている。また、8/7～8/14にかけても主要な客室はすでに予約が埋まっている（旅館）。

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移





## 3ヵ月前との比較

業況判断DIは△26.1で、前回の△15.8から悪化した。受注状況DIは、前回の△42.1から△30.4へやや改善したが、収益性DIは好転した企業がなく△47.8となった。イラン情勢の悪化で、**建築資材の値上げや販売制限**が起き、住宅建設工事に影響している。石油関連製品を原料にする断熱材や合板などの供給が不安定になり、原材料不足からユニットバスの新規受注を停止した大手もある。78.3%の企業が、イラン情勢を悪化要因とみている。

## 3ヵ月後の予想

業況判断予想DIは、前回「悪化」がなく26.3だったが、△13.1へ悪化した。78.3%の企業がさらなる総コストの上昇を予想し、73.9%の企業がイラン情勢悪化による悪化を見込んでいる。受注単価DIは低下がなく、上昇のみの43.5だった。紛争収束の見通しができないことから、多用途に広がる石油製品の供給不足で、住宅建設やリフォーム工事が止まったり、**住宅価格に上昇圧力**が一段と高まる可能性がある。

## 3月の新設住宅着工戸数

諏訪地方の合計は63戸で、前年同月比43戸減少(△40.6%)した。持家は23戸減少の39戸、貸家は16戸減少の18戸、分譲は4戸減少の6戸だった。2025年4月～2026年3月の年間累計着工戸数は1,109戸で、前年同期比25戸減少(△2.2%)した。113戸の給与住宅があった茅野市以外の郡市は、い

ずれも前年を下回った。長野県全体の3月は825戸で、前年同月比1.7%減少した。

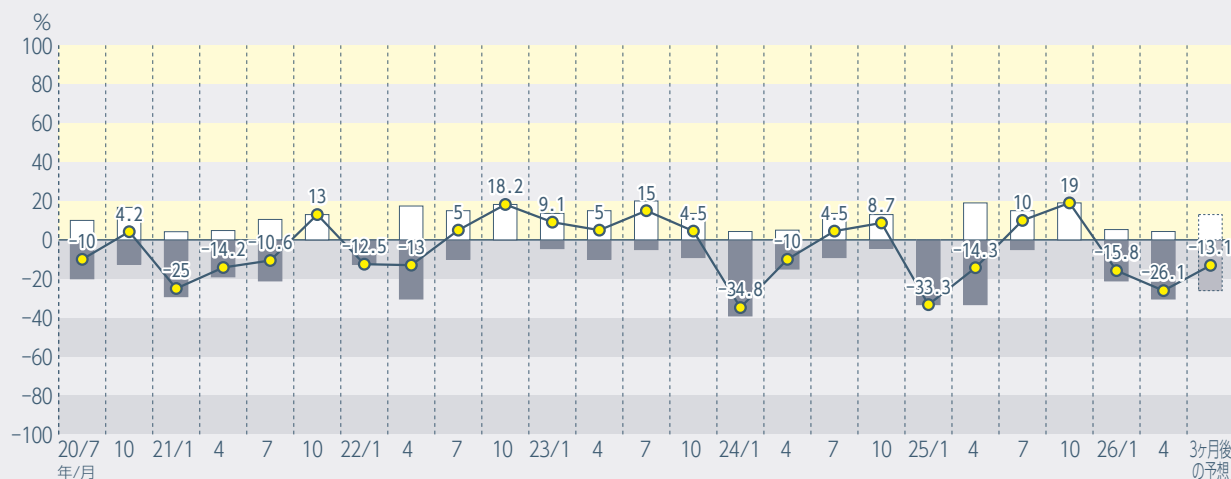
## 4月の諏訪地方市町村からの受注状況

建築工事はなく、土木・水道工事24件324百万円、その他工事10件70百万円の合計34件394百万円だった。前年同月比で、件数は3件増加し、契約金額は145百万円減少(△27.0%)した。

## 企業のひとこと

- 諏訪地区内でも建設資材の高騰や仕入れ難で工期が止まっている現場や、資材がなく職員に休みを与えている企業がある。
- 原油由来のアスファルトや断熱材などの値上がりが顕著。紛争が長引けば、建築資材の高騰はさらに続いていく。
- 生コンはコンクリートを生成するにあたり、ナフサ関連の化学薬品を使用していることから、値上げ傾向にある。
- 小さい物では、養生テープ程度の仕入れが困難になっている。部材によってはネット購入も試みているが、価格が4割以上の高値となっている。

● 建設業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



# 収益性状況

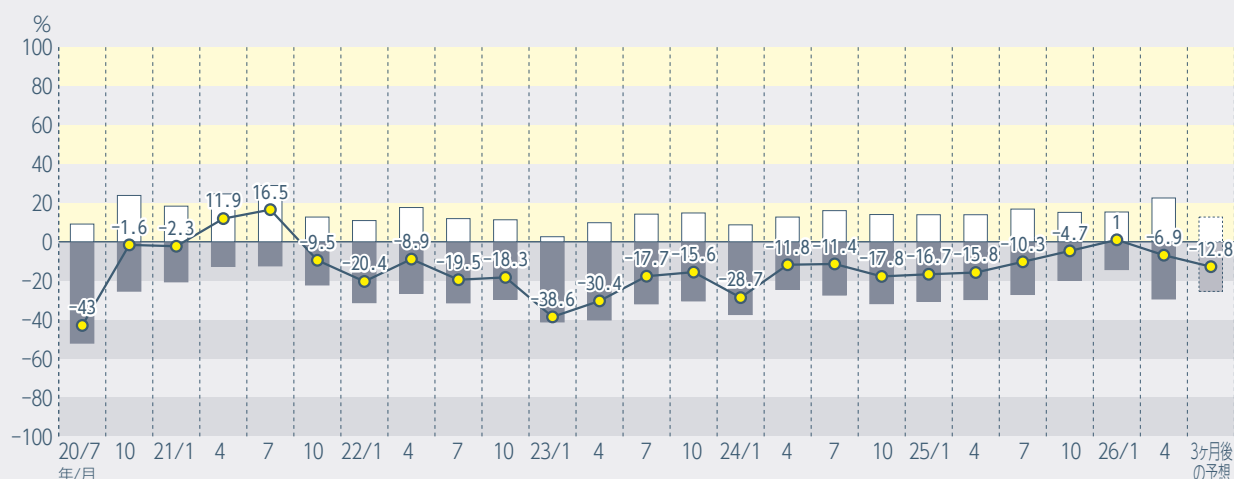
## 3ヵ月前との比較

原材料や賃金など総コストが上昇した企業は、製造業が73.5%、非製造業は71.7%だった。回答全社の収益性判断DIは「好転」18.5%、「悪化」32.1%の△13.6で、前回調査時の△11.7から悪化した。製造業は「好転」22.5%、「悪化」29.4%の△6.9で、前回の1.0から悪化。非製造業は「好転」11.7%、「悪化」36.7%の△25.0で、前回の△33.9からやや改善した。コストが収益を圧迫する状況が続いている。

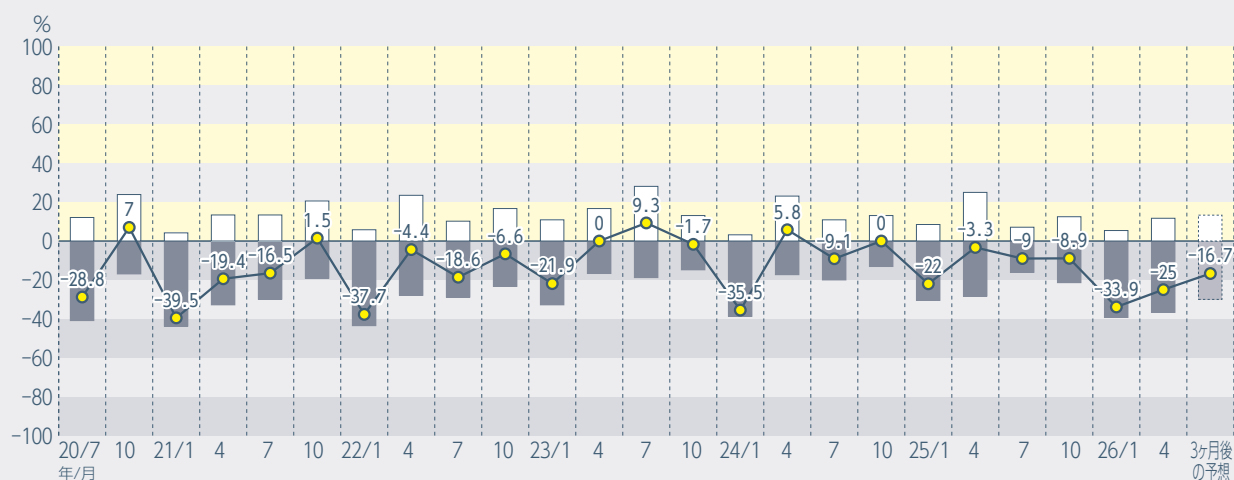
## 3ヵ月後の予想

3ヵ月後もさらにコストが上昇すると予想した企業は、製造業が75.5%、非製造業は73.3%だった。回答全社の収益性予想DIは「好転」13.0%、「悪化」27.2%の△14.2で、前回の7.1から悪化した。製造業は△12.8で、前回の10.2から悪化し、非製造業も△16.7で前回の1.8から悪化した。先行き不透明なイラン情勢によるさらなるコスト上昇が懸念されている。

●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



## 雇用状況

2026年3月の諏訪地方の有効求人倍率は、前年同月を0.03ポイント下回る1.22倍だった。**39ヵ月連続で前年同月を下回った。**県内は前月比0.01ポイント上昇の1.24倍で、全国は前月から0.01ポイント低下の1.18倍だった。いずれも**今後、緊迫する中東情勢が雇用に与える影響を注視**することが必要としている。

2025年度平均の有効求人倍率は、諏訪が1.23倍、全国は1.20倍で、ともに3年連続で前年度を下回った。全国の完全失業率は、3月が前月比0.1ポイ

ント上昇の2.7%で、25年度平均は2.6%だった。

諏訪地方は、新規求人数が1,328人で、前年同月比15人増加(1.1%)した。新規求職者数は726人で、前年同月比19人減少(△2.6%)した。産業別の前年同月比の新規求人数は、「宿泊業・飲食サービス業」が46.0%、「卸売業・小売り業」は39.0%と増加し、「製造業」△10.2%、「運輸業・郵便業」△26.5%、「建設業」△18.8%が減少した。1件10人以上の人員整理はなかった。

## 経営上の課題 (3つまでの複数回答)

経営上の課題として①製造業は労働力確保と人件費②商業は労働力確保と人件費③建設業は労働力確保と売上減少④観光・サービス業は労働力確保

と人件費だった。イラン情勢悪化の影響が波及する中でも、全業種で労働力確保が課題になっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	61	36	7	11	7
単価引下げ	11	7	1	3	0
競争激化	25	15	6	3	1
資金繰り	40	22	6	4	8
人件費	66	40	8	6	12
労働力確保	88	53	8	16	11

## 諏訪地方主要経済指標

		実数	前年同期比
有効求人倍率【3月】ハローワーク諏訪管内		1.22倍	△0.03ポイント
6市町村公共工事受注【4月】 (税抜・業務委託除く)	件数	34件	3件
	金額	394百万円	△145百万円
車庫証明件数【4月】(諏訪地方合計)		868件	9.3%
新設住宅着工件数【2025年4月～2026年3月(諏訪管内)】		1,109戸	△2.2%

# 2026年4月の状況 (企業%) ●自社の業況 ●収益性

## ●自社の業況

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全	体	162	19.8	56.2	24.1	-4.3	162	25.9	43.2	30.9	-5.0	162	17.3	63.0	19.8	-2.5
製	造	102	24.5	53.9	21.6	2.9	102	34.3	41.2	24.5	9.8	102	16.7	68.6	14.7	2.0
規	1～29人	57	17.5	56.1	26.3	-8.8	57	29.8	43.9	26.3	3.5	57	17.5	61.4	21.1	-3.6
	30～99人	35	34.3	51.4	14.3	20.0	35	37.1	40.0	22.9	14.2	35	14.3	82.9	2.9	11.4
	100人～	10	30.0	50.0	20.0	10.0	10	50.0	30.0	20.0	30.0	10	20.0	60.0	20.0	0.0
中	金属製品 製造業	32	31.3	46.9	21.9	9.4	32	40.6	37.5	21.9	18.7	32	18.8	68.8	12.5	6.3
	一般機械 製造業	13	15.4	61.5	23.1	-7.7	13	23.1	46.2	30.8	-7.7	13	15.4	69.2	15.4	0.0
	電気機械器具 製造業	15	13.3	73.3	13.3	0.0	15	46.7	40.0	13.3	33.4	15	20.0	73.3	6.7	13.3
	輸送用機械 器具製造業	9	22.2	44.4	33.3	-11.1	9	44.4	44.4	11.1	33.3	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
	精密機械器具 製造業	14	21.4	50.0	28.6	-7.2	14	35.7	35.7	28.6	7.1	14	21.4	64.3	14.3	7.1
非	製	60	11.7	60.0	28.3	-16.6	60	11.7	46.7	41.7	-30.0	60	18.3	53.3	28.3	-10.0
商	業	19	21.1	52.6	26.3	-5.2	19	21.1	52.6	26.3	-5.2	19	10.5	57.9	31.6	-21.1
建	設	23	4.3	65.2	30.4	-26.1	23	8.7	47.8	43.5	-34.8	23	13.0	60.9	26.1	-13.1
観	光・サービス業	18	11.1	61.1	27.8	-16.7	18	5.6	38.9	55.6	-50.0	18	33.3	38.9	27.8	5.5

## ●収益性

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全	体	162	18.5	49.4	32.1	-13.6	162	20.4	43.8	35.8	-15.4	162	13.0	59.9	27.2	-14.2
製	造	102	22.5	48.0	29.4	-6.9	102	27.5	40.2	32.4	-4.9	102	12.7	61.8	25.5	-12.8
規	1～29人	57	15.8	47.4	36.8	-21.0	57	21.1	42.1	36.8	-15.7	57	8.8	59.6	31.6	-22.8
	30～99人	35	31.4	48.6	20.0	11.4	35	31.4	42.9	25.7	5.7	35	14.3	71.4	14.3	0.0
	100人～	10	30.0	50.0	20.0	10.0	10	50.0	20.0	30.0	20.0	10	30.0	40.0	30.0	0.0
中	金属製品 製造業	32	28.1	50.0	21.9	6.2	32	31.3	46.9	21.9	9.4	32	12.5	65.6	21.9	-9.4
	一般機械 製造業	13	0.0	53.8	46.2	-46.2	13	7.7	38.5	53.8	-46.1	13	15.4	53.8	30.8	-15.4
	電気機械器具 製造業	15	26.7	53.3	20.0	6.7	15	33.3	46.7	20.0	13.3	15	20.0	60.0	20.0	0.0
	輸送用機械 器具製造業	9	22.2	55.6	22.2	0.0	9	44.4	33.3	22.2	22.2	9	0.0	55.6	44.4	-44.4
	精密機械器具 製造業	14	21.4	42.9	35.7	-14.3	14	35.7	21.4	42.9	-7.2	14	14.3	64.3	21.4	-7.1
非	製	60	11.7	51.7	36.7	-25.0	60	8.3	50.0	41.7	-33.4	60	13.3	56.7	30.0	-16.7
商	業	19	26.3	47.4	26.3	0.0	19	15.8	52.6	31.6	-15.8	19	10.5	73.7	15.8	-5.3
建	設	23	0.0	52.2	47.8	-47.8	23	4.3	47.8	47.8	-43.5	23	4.3	56.5	39.1	-34.8
観	光・サービス業	18	11.1	55.6	33.3	-22.2	18	5.6	50.0	44.4	-38.8	18	27.8	38.9	33.3	-5.5

# 2026年4月の状況 (企業%) ●資金繰り ●材料賃金等総費用

## ●資金繰り

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
全 体	162	9.9	70.4	19.8	-9.9	162	10.5	66.7	22.8	-12.3	162	5.6	72.2	22.2	-16.6	
製 造 業	102	10.8	73.5	15.7	-4.9	102	14.7	67.6	17.6	-2.9	102	5.9	74.5	19.6	-13.7	
規 模	1～29人	57	10.5	68.4	21.1	-10.6	57	12.3	64.9	22.8	-10.5	57	1.8	73.7	24.6	-22.8
	30～99人	35	11.4	80.0	8.6	2.8	35	20.0	68.6	11.4	8.6	35	8.6	82.9	8.6	0.0
	100人～	10	10.0	80.0	10.0	0.0	10	10.0	80.0	10.0	0.0	10	20.0	50.0	30.0	-10.0
中 分 類	金属製品 製造業	32	18.8	68.8	12.5	6.3	32	18.8	68.8	12.5	6.3	32	3.1	78.1	18.8	-15.7
	一般機械 製造業	13	0.0	76.9	23.1	-23.1	13	0.0	76.9	23.1	-23.1	13	0.0	84.6	15.4	-15.4
	電気機械器具 製造業	15	6.7	86.7	6.7	0.0	15	20.0	73.3	6.7	13.3	15	20.0	73.3	6.7	13.3
	輸送用機械 器具製造業	9	11.1	77.8	11.1	0.0	9	22.2	66.7	11.1	11.1	9	0.0	77.8	22.2	-22.2
	精密機械器具 製造業	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	14.3	57.1	28.6	-14.3	14	7.1	78.6	14.3	-7.2
非 製 造 業	60	8.3	65.0	26.7	-18.4	60	3.3	65.0	31.7	-28.4	60	5.0	68.3	26.7	-21.7	
商 業	19	10.5	73.7	15.8	-5.3	19	0.0	78.9	21.1	-21.1	19	0.0	78.9	21.1	-21.1	
建 設 業	23	8.7	65.2	26.1	-17.4	23	4.3	65.2	30.4	-26.1	23	0.0	73.9	26.1	-26.1	
観光・サービス業	18	5.6	55.6	38.9	-33.3	18	5.6	50.0	44.4	-38.8	18	16.7	50.0	33.3	-16.6	

## ●材料賃金等総費用

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答 企業数	上昇	不変	低下	DI	回答 企業数	上昇	不変	低下	DI	回答 企業数	上昇	不変	低下	DI	
全 体	162	72.8	24.1	3.1	69.7	162	77.2	19.1	3.7	73.5	162	74.7	23.5	1.9	72.8	
製 造 業	102	73.5	24.5	2.0	71.5	102	80.4	17.6	2.0	78.4	102	75.5	22.5	2.0	73.5	
規 模	1～29人	57	70.2	26.3	3.5	66.7	57	78.9	17.5	3.5	75.4	57	78.9	21.1	0.0	78.9
	30～99人	35	77.1	22.9	0.0	77.1	35	82.9	17.1	0.0	82.9	35	65.7	28.6	5.7	60.0
	100人～	10	80.0	20.0	0.0	80.0	10	80.0	20.0	0.0	80.0	10	90.0	10.0	0.0	90.0
中 分 類	金属製品 製造業	32	75.0	21.9	3.1	71.9	32	81.3	15.6	3.1	78.2	32	75.0	25.0	0.0	75.0
	一般機械 製造業	13	69.2	30.8	0.0	69.2	13	69.2	30.8	0.0	69.2	13	61.5	38.5	0.0	61.5
	電気機械器具 製造業	15	73.3	26.7	0.0	73.3	15	93.3	6.7	0.0	93.3	15	93.3	6.7	0.0	93.3
	輸送用機械 器具製造業	9	66.7	33.3	0.0	66.7	9	77.8	22.2	0.0	77.8	9	77.8	22.2	0.0	77.8
	精密機械器具 製造業	14	92.9	7.1	0.0	92.9	14	85.7	14.3	0.0	85.7	14	71.4	21.4	7.1	64.3
非 製 造 業	60	71.7	23.3	5.0	66.7	60	71.7	21.7	6.7	65.0	60	73.3	25.0	1.7	71.6	
商 業	19	73.7	21.1	5.3	68.4	19	57.9	31.6	10.5	47.4	19	63.2	36.8	0.0	63.2	
建 設 業	23	69.6	26.1	4.3	65.3	23	73.9	21.7	4.3	69.6	23	78.3	17.4	4.3	74.0	
観光・サービス業	18	72.2	22.2	5.6	66.6	18	83.3	11.1	5.6	77.7	18	77.8	22.2	0.0	77.8	

# 2026年4月の状況 (企業%) ●イラン情勢の影響 ●諏訪地方の景況感

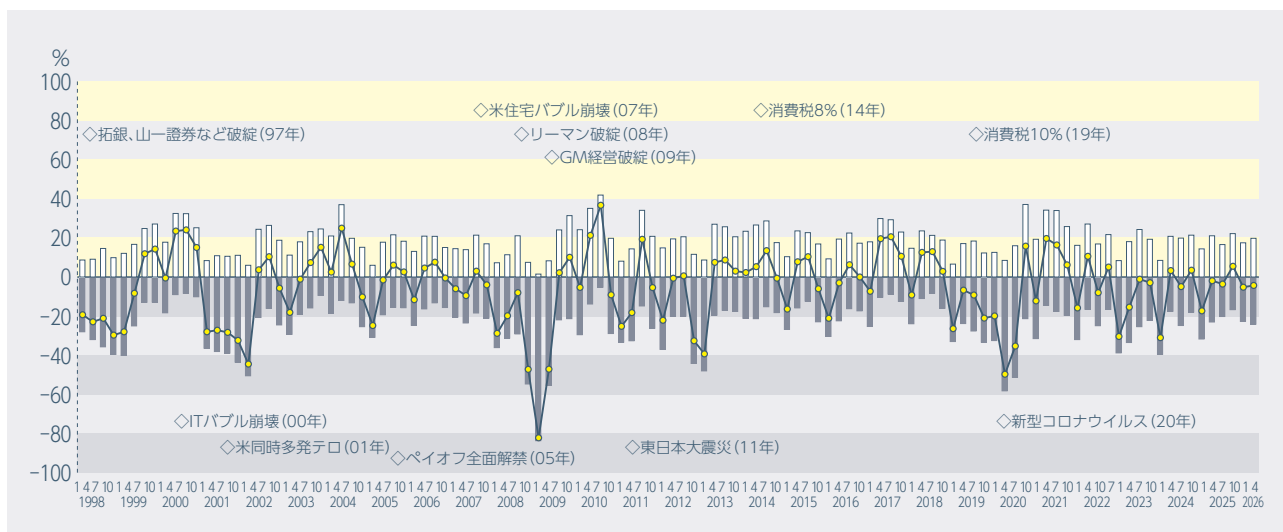
## ●イラン情勢の影響

		3ヶ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヶ月後の予想						
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全	体	162	0.0	34.0	66.0	-66.0	162	0.0	31.5	68.5	-68.5	162	3.1	32.7	64.2	-61.1
製	造	102	0.0	34.3	65.7	-65.7	102	0.0	32.4	67.6	-67.6	102	2.9	34.3	62.7	-59.8
規	1~29人	57	0.0	33.3	66.7	-66.7	57	0.0	35.1	64.9	-64.9	57	1.8	31.6	66.7	-64.9
	30~99人	35	0.0	37.1	62.9	-62.9	35	0.0	28.6	71.4	-71.4	35	5.7	40.0	54.3	-48.6
	100人~	10	0.0	30.0	70.0	-70.0	10	0.0	30.0	70.0	-70.0	10	0.0	30.0	70.0	-70.0
中	金属製品 製造業	32	0.0	37.5	62.5	-62.5	32	0.0	31.3	68.8	-68.8	32	3.1	34.4	62.5	-59.4
	一般機械 製造業	13	0.0	23.1	76.9	-76.9	13	0.0	23.1	76.9	-76.9	13	0.0	23.1	76.9	-76.9
	電気機械器具 製造業	15	0.0	46.7	53.3	-53.3	15	0.0	33.3	66.7	-66.7	15	0.0	26.7	73.3	-73.3
	輸送用機械 器具製造業	9	0.0	44.4	55.6	-55.6	9	0.0	33.3	66.7	-66.7	9	0.0	44.4	55.6	-55.6
	精密機械器具 製造業	14	0.0	28.6	71.4	-71.4	14	0.0	35.7	64.3	-64.3	14	7.1	42.9	50.0	-42.9
非	製	60	0.0	33.3	66.7	-66.7	60	0.0	30.0	70.0	-70.0	60	3.3	30.0	66.7	-63.4
商	業	19	0.0	47.4	52.6	-52.6	19	0.0	42.1	57.9	-57.9	19	0.0	42.1	57.9	-57.9
建	設	23	0.0	21.7	78.3	-78.3	23	0.0	17.4	82.6	-82.6	23	8.7	17.4	73.9	-65.2
観	光・サービス業	18	0.0	33.3	66.7	-66.7	18	0.0	33.3	66.7	-66.7	18	0.0	33.3	66.7	-66.7

## ●諏訪地方の景況感

		3ヶ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヶ月後の予想						
		回答 企業数	上昇	不変	低下	DI	回答 企業数	上昇	不変	低下	DI	回答 企業数	上昇	不変	低下	DI
全	体	162	8.0	48.8	43.2	-35.2	162	9.3	45.7	45.1	-35.8	162	3.7	55.6	40.7	-37.0
製	造	102	9.8	54.9	35.3	-25.5	102	12.7	51.0	36.3	-23.6	102	5.9	58.8	35.3	-29.4
規	1~29人	57	8.8	50.9	40.4	-31.6	57	10.5	43.9	45.6	-35.1	57	5.3	47.4	47.4	-42.1
	30~99人	35	8.6	62.9	28.6	-20.0	35	14.3	62.9	22.9	-8.6	35	5.7	82.9	11.4	-5.7
	100人~	10	20.0	50.0	30.0	-10.0	10	20.0	50.0	30.0	-10.0	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
中	金属製品 製造業	32	12.5	53.1	34.4	-21.9	32	6.3	56.3	37.5	-31.2	32	6.3	62.5	31.3	-25.0
	一般機械 製造業	13	7.7	30.8	61.5	-53.8	13	7.7	38.5	53.8	-46.1	13	7.7	30.8	61.5	-53.8
	電気機械器具 製造業	15	6.7	73.3	20.0	-13.3	15	26.7	60.0	13.3	13.4	15	0.0	73.3	26.7	-26.7
	輸送用機械 器具製造業	9	11.1	66.7	22.2	-11.1	9	22.2	55.6	22.2	0.0	9	0.0	55.6	44.4	-44.4
	精密機械器具 製造業	14	21.4	42.9	35.7	-14.3	14	28.6	35.7	35.7	-7.1	14	14.3	71.4	14.3	0.0
非	製	60	5.0	38.3	56.7	-51.7	60	3.3	36.7	60.0	-56.7	60	0.0	50.0	50.0	-50.0
商	業	19	5.3	52.6	42.1	-36.8	19	5.3	52.6	42.1	-36.8	19	0.0	52.6	47.4	-47.4
建	設	23	4.3	34.8	60.9	-56.6	23	4.3	26.1	69.6	-65.3	23	0.0	47.8	52.2	-52.2
観	光・サービス業	18	5.6	27.8	66.7	-61.1	18	0.0	33.3	66.7	-66.7	18	0.0	50.0	50.0	-50.0

# 回答全社：業況判断DIの推移 (当金庫の調査開始から)



## 調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ①調査期間 2026年4月。
- ②調査内容 「2026年4月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④DI回答数 162企業。
- ⑤回答率 64.8%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	160	40	30	20	250
回答数	102	19	23	18	162

# 景気後退に備える

株式会社小宮コンサルタンツ CEO  
小宮 一慶氏



イラン情勢の行く末が混とんとする中、景気の先行きに黄信号が灯り始めました。イラン戦争は2月末に始まりましたが、その前後の景気指標の動きを見ていきましょう。

まず、端的に反応したのが、街角景気(=景気ウォッチャー調査)です。これは、経済の最前線にいて景気に敏感な人たち、具体的にはタクシードライバーさん、小売店の店頭にいる人、ホテルのフロントマン、中小企業経営者などの他、変わったところではハローワークの受付の方などに、景気が良くなっているかどうかを内閣府が各地で調査しているものです。

50が景気が良くなっているかどうかの境目で、50を切っていると景気が悪化していると感じている人の方が多いということです。

表を見てください。表には2025年1月以降の数字が出ています。コロナが2類から5類になった2023年の春先以降は、しばらく50を超える数字が続いていましたが、このところは50を少し切る程度の状態でした。好調ではないですが、波があるもののまづまづの状況だということです。

	街角景気	企業倒産件数
2025年1月	48.6	840
2月	45.6	764
3月	45.1	853
4月	42.6	828
5月	44.4	857
6月	45.0	848
7月	45.2	961
8月	46.7	805
9月	47.0	873
10月	48.2	965
11月	48.0	778
12月	47.7	928
2026年1月	47.6	887
2月	48.9	851
3月	42.2	924
(出所)	内閣府	東京商工リサーチ

今年に入ってもそのような状況でしたが、3月に入り42.2まで急落しました。3月前半はレギュラーガソリンがリッター200円程度まで上昇するなどがあり、また先行きへの不安感も大きく、指数が急落したのです。

3月の段階では、まだ大きく实体经济に影響は出ていませんが、この先の街角景気の数字に注意が必要です。

さらには、企業倒産件数も表に載せてあります。ここ1年ほどは月に900件前後で推移しています。実は2020年から3年間ほどのコロナの頃には、500件前後の月が続いていました。これは、皆さんもお分かりのようにいわゆる「ゼロ・ゼロ」融資や、多額の雇用調整助成金が出ていたのです。

それが、コロナ明けごろから、倒産件数が顕著に増加し、最近の数字に至っているということです。ゼロ・ゼロ融資の返済が始まったことや補助金がなくなったこ

とが大きな要因です。

表にはありませんが、日銀短観の数字を見ると、ITや飲食などを中心とした非製造業は絶好調の状況ですが、製造業は自動車関連を中心に停滞感があるものの、全体的にはスピードは遅いものの徐々には回復しているというのが3月までの状態でした。

しかし、先行きに対する懸念はその時点でも強く、そしてそれが戦争の先行きが見えないことで現実化しつつあります。

当社のお客さまを見ても、石油化学製品のこの先の供給に対する懸念が日増しに強くなっています。シンナーや接着剤などの製品が不足し、それらを使う機械などの産業にも影響が出始めています。工夫することなどにより、なんとか急場をしのいでいる企業も多くありますが、製造やオペレーションに影響が出ているところもあります。

さらには、このような状況でも長期金利が上昇しています。この原稿を書いている時点で、長期金利の代表格である10年国債利回りが、2.6%程度まで上昇しています。財政悪化懸念からですが、このところ急ピッチで上がっています。

また、補助金が出てガソリンや電気・ガスの値段はある程度抑えているものの、円安や原油価格の上昇から輸入物価は上昇し始めており、消費者物価は今後上昇が予想されます。事実、補助金が出ていない米国では、今年、1月、2月の消費者物価上昇率はそれぞれ2.4%でしたが、3月に3.3%、4月には3.8%とインフレが再燃しています。欧州でも物価は上昇しています。

ここ数か月、やっと「実質賃金(名目賃金上昇率－インフレ率)」がプラスになったのですが、このままでは、インフレにより再度実質賃金がマイナスとなる懸念も小さくありません。そのために、日銀は現状0.75%の政策金利の上昇に迫られています。

また、物価抑制のための補助金の多額の支出は、先にも述べたように、財政悪化懸念から長期金利の上昇をもたらします。

前回のこの連載でも指摘しましたが、インフレ下の景気後退である「スタグフレーション」を心配しなければならぬと思います。

経営者は景気後退への備えが必要で、短期的には、手元流動性(すぐに使えるお金)を保険の意味でも普段より少し多めに持っておいた方がいいと考えます。

**諏訪信用金庫アプリ** ダウンロードはこちら→  
スマートフォンから簡単に**新規口座開設**や**残高照会**、**入出金明細の確認**などができます。登録は無料です。



長野県岡谷市郷田二丁目1番8号  
TEL 0266-23-4572  
FAX 0266-24-4055



ホームページ



Instagram

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は  
諏訪信用金庫 総務部へ  
TEL 0266-23-4567